令和４年度　中央区立久松幼稚園　自己評価報告書
中央区立久松幼稚園　　住所　東京都中央区日本橋久松町７－２ 園　長　　川越　裕子 幼児数　　１４５名　　学級数　６　　教員数　１６　名　　職員数　　１９　名
教育目標 　人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。 　**〇たくましい子**　　・心身ともに健康な子を育てる。 　**〇進んでやる子**　　・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。 　**〇心豊かな子**　　・思いやりの心をもち、心豊かな子を育てる。

教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

令和４年度の重点　　豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）

重点目標１　幼児が様々な経験の中から、集団での生活に必要な習慣や態度、心情を養う。
（健康な心と体　自立心　道徳性・規範意識の芽生え　思考力の芽生え）

評価指標：

①幼児は、学年当初と比較し、身の回りの支度や生活に必要なことを自分の力でやってみようとするようになったか。

②幼稚園は保育の中で考えたり試したりできるような教材や機会を提供し、それに取り組む中で幼児は満足感を得ることができたか。

③幼稚園は多様な動きを引き出すような運動遊びの機会を提供し、それにより幼児は学年当初と比較し体を動かす遊びを楽しむようになったか。

重点目標２　同学年、異学年の友達と関わる中で様々な感情体験をし、思いやりの心や自分の成長を喜ぶ気持ちを育む。（協同性　社会生活との関わり　言葉による伝え合い）

評価指標：

①幼稚園は、同学年の友達や異年齢児と関わる機会を積極的に設定し、それらをとおして幼児は、人と関わる楽しさや思いやり、親しみの気持ちを感じていたか。

②人と関わる経験をとおして、幼児が自分の成長を感じているような姿が見られたか。

重点目標３　開園８０周年をお祝いし、幼稚園や地域を愛する気持ちを醸成する。（社会生活の関わり）

評価指標：

①幼稚園は小学校と協力し、周年を祝うことができるような機会を設定していたか。

②幼児は、周年を祝う様々な機会に参加することで、いろいろな人と関わることを喜んだり園や地域をより好きになったりしたか。

重点目標４　幼稚園と家庭・地域とが連携し、「共に子育て」という意識を共有し、子育てを充実させる。
（社会生活との関わり　地域や家庭との連携）

評価指標：

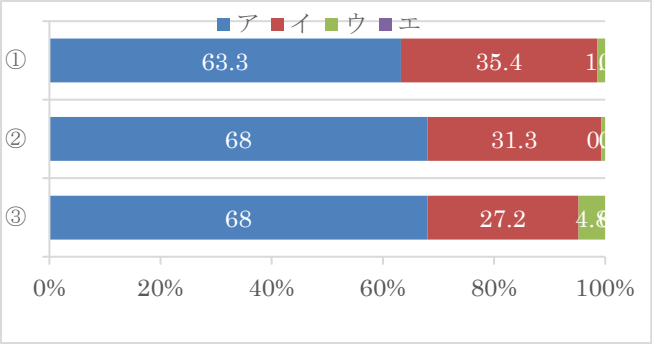
①幼稚園は園務支援システム「ルクミー」を活用し、保護者に対して週１回以上、園での幼児の様子を公開したか。

②幼稚園は、保護者に対しては保護者会や園から提供する情報で、地域の方に向けてホームページや学校評議員会等の機会で、園の保育の様子を分かりやすく説明し、理解につながったか。

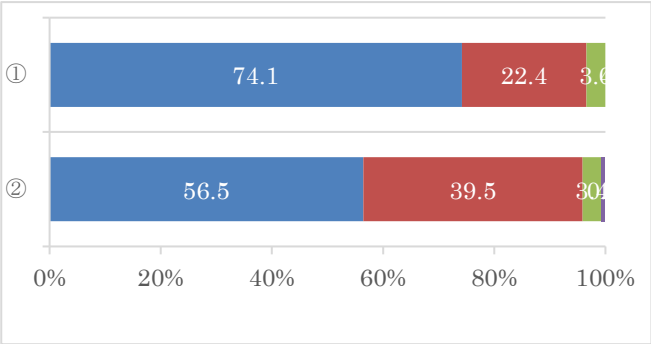
１　**保護者アンケートより**（Googleform での回答　回収率　100%　＊長期欠席者除く）

（１）重点目標について

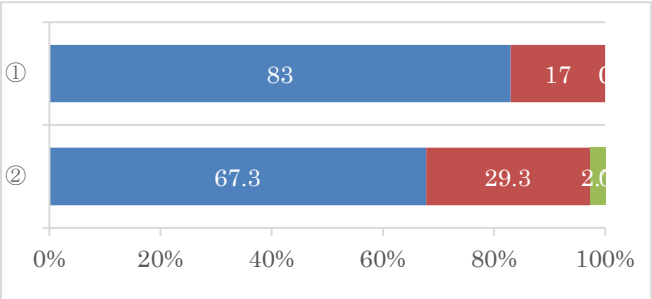
重点目標１



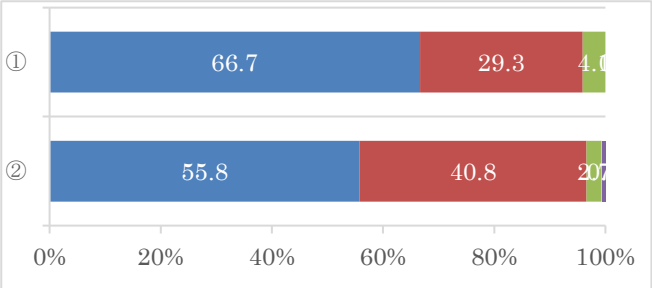
重点目標２



重点目標３



重点目標４



ア：そう思う、よくできている　イ：ややそう思う、できている　ウ：あまり思わない、できていない
エ：そう思わない、とても課題がある

〇ほとんどの指標で、90%以上の保護者が「概ねよい」（ア＋イ）、50%以上の保護者が「よい」（ア）と評価している。

〇特に重点目標３の評価は高く、①「幼稚園は小学校と協力し、周年を祝うことができるような機会を設定していたか。」については、全保護者が「概ねよい」と評価している。

〇評価が低かったもの（「よい」の評価が50%超程度）は、次の２項目である。

・重点目標２－②「人との関わりから幼児自身が成長を感じ取っているか。」
→異年齢の交流活動への評価は高かったが、そのことが「自身の成長への気付き」につながっているかの読み取りまでは、家庭では難しかったのかもしれない。これについては、後述の教員の評価も十分に高くはなく（「概ねよい」の評価が66.7%）、交流活動の成果のさらなる分析が必要である。

・重点目標４－②「保護者会、ＨＰ、評議員会等にて、園の様子を分かりやすく知らせているか。」
→園公開が少なく、園での幼児の様子を見る機会が少なかったことは、昨年の評価の低い点でもあった。園としてはコロナ禍でできうる範囲での工夫を行ったつもりであるが、さらなる工夫が必要である。重点目標４－①「園務支援システムのよりよい活用」とともに、次年度は工夫し評価を上げたいところである。

（２）その他の項目について

〇全ての項目で90%以上が「おおむねよい」（ア＋イ）の評価である。

〇特に評価が高い項目は、Ⅳ－③「環境の整備」である。今年度より主事が２名体制になり、これまで以上に行き届いた環境の整備ができたことが、評価につながっている。

○特に評価が低い項目は、次の２点である。

・Ⅲ－⑦「規範意識を身に付ける」⑨「集団生活の規律を身に付ける」

→心の育ちについての評価はなかなか難しい。また、これらの２点は、間違ったり失敗したりしながら身に付いていくものであり、幼児期はその「間違い」や「失敗」をしてしまう時期でもある。これらの経験が将来、規範意識や集団生活の規律につながっていく、ということへの理解を促す事が必要である。

・Ⅳ－④「日常の保育の様子の発信」

→重点目標の評価と同じである。園務支援システム等を活用し、十分に知らせていきたい。

（３）自由記述から

○多くの記述が、コロナ禍での園行事の工夫や周年行事の実施への感謝等であった。

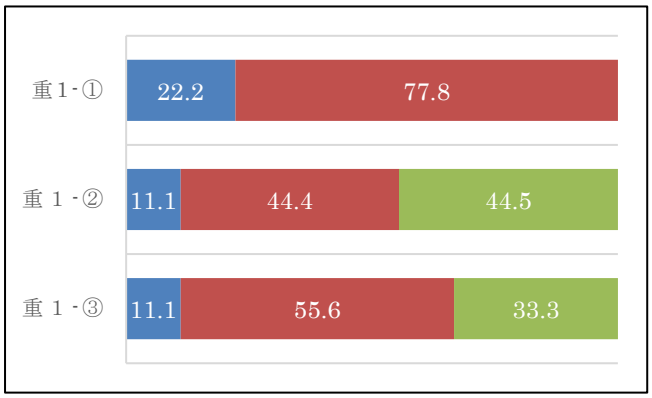
○ただ、園からの発信についての厳しい意見もあった。園だよりの誤記載や誤字の指摘、発信方法の複雑化（園だより、園から配布する手紙、園務支援システムなど、園からの連絡が多岐にわたりかえって分かりづらい）が指摘された。十分に気を付け、さらに保護者発信のツールの検討も行ってまいりたい。

２　教員の評価より（10名中９名回答　回答率90％）

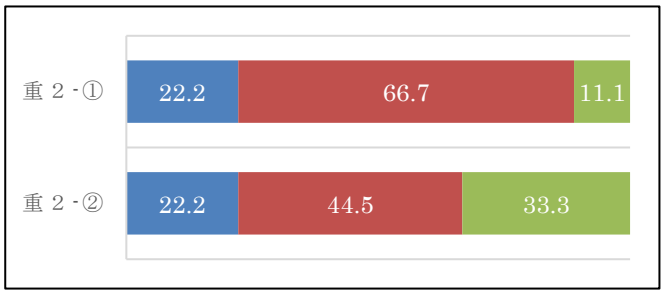
（１）重点目標について

５　十分達成している ⟷ ３　ある程度達成している ⟷ １課題や改善すべき点がある

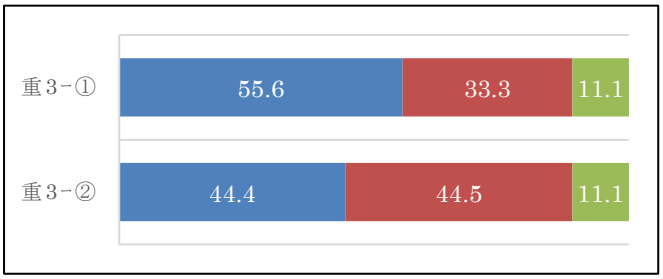
重点目標1



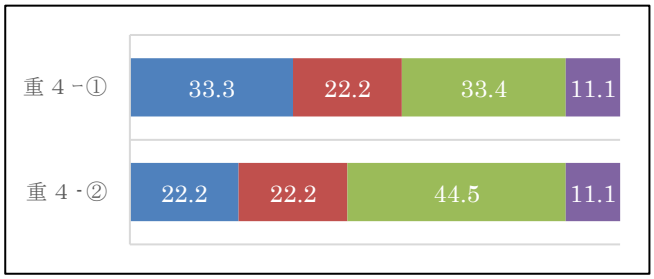
重点目標２



重点目標３



重点目標４



○目標により、評価の違いが明確である。

○評価が高かったものは重点目標１－①「身の回りの支度や生活に必要なことを自分の力でやってみようとするようになったか」については、教員が１年を通して計画的に指導を積み重ねてきたことについて評価されている。

○評価の低い項目は重点目標４「家庭との連携」
→園務支援システムのよりよい活用方法や、保護者会の工夫等についての評価が低く、このことは、保護者評価の結果とも合致している。
特に園務支援システムの活用については試行錯誤を重ねており、第３学期になってようやく慣れ、日々の保育の様子をお知らせできるようになった。引き続き次年度に向けて工夫を重ねたい。

（２）その他の項目について

○項目により評価に違いが出ている。また「十分達成できている」との評価は少ない。
○その中でも比較的高い評価であったものは、次の３点である。
Ⅲ-⑨「栽培活動や食育、伝統行事から心情を豊かにする」→幼稚園だからこそ経験できる良さ
Ⅲ-⑩「一人一人の個性に応じた支援」→幼児教育の基本的な姿勢
Ⅳ-③「いろいろな幼児との交流」→研究に位置付けたことで意識をして取り組んだ。
☆幼稚園教育のよさや特長をとらえて教育活動に当たっていた。
○評価が低い項目はⅢ-⑫「OJT の推進」
→互いの保育を見合うものの、自信の指導力の向上には十分につなげられなかった。

（３）自由記述から

○運動遊び推進園の課題設定について、改めて課題を共有し、再設定して臨みたい。
○未就園児の会について、参加人数も多く、それが次年度入園者の増につながった。
○教員間の連携について、コロナ感染予防対策を考えながら今年度のやり方を考えて取り組むことができた一方で、それぞれの教員によって解釈のしかたが異なっていたり、前回どこまで話し合ったか曖昧になってしまったりしたことが多かったように思う。特に、大きな行事のことや、計画的に進めていく必要があるものは、全員が共通理解できるやり方を考えていく必要があると思う。

令和５年度に向けた取組

①今年度の反省より
運動遊び推進園のテーマ設定
教員同士の連携方法（大人数でのよりよい連携）
保護者への発信（ルクミーの活用、その他媒体とのすみわけ）
「アフターコロナ」としての保育内容　これまでの方法とどのように変えていくか
②教員の指導力向上
OJT の機会の活用（保幼小連携等）
研修への参加（教材研究、特別支援教育・・）
教材研究等の時間の確保
③常盤園舎移転に向けて準備の推進
バスの配車方法、車内の指導、安全管理・指導、等
新園舎での生活について・・・常盤小との交流
現園舎でできること・・・サクラ広場の活用、異年齢交流、久松小との交流
行事等計画の際に、次年度のことも視野に入れて考える。
地域との関わり　積極的に、地域人材の活用（ひさまつよみきかせの会、など）
④中央区立幼稚園の存続のためにやらなくてはならないこと
未就園児の会　年間１２回　平日午前中/夏季休業中/土曜公開の午後（パパデー）
その他、本園でできることを探りながら、積極的に実施する。